

みずのさんぽ

取組に至る背景・事業の目的

松本市内の地域資源である湧水と文化資産である工芸・クラフトを結びつけ、生活における豊かな水のあり方・豊かな工芸・クラフトのあり方を提案することによって、市民生活の質的環境や文化的景観の向上と新たな観光資源の開発を目指す。また、地域住民と工芸作家・職人・ギャラリー・ユーザーなどを「水とクラフト」でつなぐことによって、相乗的な文化・景観創造と観光資源開発に向けた新たなネットワークの構築と継続を目指す。

多くの来訪者が見込める「クラフトフェアまつもと」の前一カ月に行うことで、来訪者をまちへ誘導し、工芸を通してまちの魅力を紹介する。



事業内容

「湧水」と「工芸」による魅力的な景観創造と地域住民の意義向上を図り身近な観光資源を開発

- 湧水を楽しむためのグッズ開発
- 「水と工芸」による街の景観形成と観光資源を開発する人のネットワークの強化
- 6つのツアールートの設定とマップづくり
- 各専門家や地域住民によるガイド
- 井戸・湧水群での立寄りスポットづくり



【ツアー3 池上喫水社参り・寄り道スポット】

事業効果

- 「城下町と水、工芸」によって繋がるネットワークで独自に活動してきた団体、個人が相乗的な文化・景観創造と観光資源開発に向けて相互協力することができた。(H22:参加予定6団体、他個人多数)
- 松本の水辺景観形成と観光振興を担うグッズの創出 (H22:グッズ5種全15品目制作)
- リピーター観光者の獲得 (H22:参加者のべ約3,000人)
- 3万人来訪する「クラフトフェアまつもと」、美術館との連携による市街への人の誘導効果

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 「みずのさんぽ」において構築された、地域住民・工芸作家・観光客に、新しく参加する団体、個人を加え、「水と工芸」+「城下町」によるネットワークを拡大していく。
- 「みずのさんぽ」のエリアを拡大させ、地域住民や工芸作家らとの協働事業による「水と工芸」+「城下町」を特徴とした魅力的な景観と観光コンテンツづくりを目指す。松本城周辺を舞台とした「湧水」と「工芸」のアートプロジェクト「みずのさんぽ」を企画する。
- 城下町の風情を感じる立寄りスポットを設け、水と工芸での豊かな暮らしの楽しみ方を提案する。

【選定のポイント】

松本の特徴である湧水群を活かした「まち巡りツアー」の開催により中心市街地へ誘客が図られ、新たな顧客の開拓や地域活性化につながる有意義な事業となっている。またリピーターも多く、新たな観光資源として、今後の事業継続に大きな期待ができる。

団体名	みずみずしい日常実行委員会 (松本市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	会長 西森 尚己	事業費	2,661,242円
メールアドレス	mizunosanpo@excite.co.jp	支援金額	2,587,000円